



こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
~しようよの組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第35号 2016・冬

朝ドラに見る女性の生き方 ~『あさが来た』と『まれ』

NHK 朝の連続テレビ小説(朝ドラ)で、現在放送中の『あさが来た』や前回の『まれ』を見たことがある方は多いのではないのでしょうか。朝ドラの主人公は、ほとんどが女性で、様々な生き方や一生を見せてくれます。視聴者は時代や場所を超えて、主人公に共感したり、色々な気づきがあったりします。二つの朝ドラから女性の生き方を考えてみました。

主人公「あさ」と「^{まれ}希」



あさ

「あさ」のモデルとなっているのは広岡浅子。実在の人物で、幕末に京都の名家に生まれ大阪の両替商に17歳で嫁ぎました。活発で好奇心旺盛な彼女は商いを独学で修め、炭鉱を経営、銀行・生命保険会社などを設立し実業家として成功しました。また日本初の女子大学の設立に大きな役割を果たし、自分の後に続く女性達への援助も惜しみませんでした。江戸から明治へと激動の時代を生き抜いたスケールの大きな女性です。

「希」は能登の輪島に暮らす普通の女の子。まず公務員になりますが、本来の夢に気づき横浜のケーキ店で修業を始めました。ひたむきに努力を続け、店主からフランス留学を勧められるまでになりますが、結婚した夫の実家の店を手伝う道を選びます。やがて、周囲の理解もあり念願のケーキ店を持った矢先、双子を妊娠・出産しました。そして、仕事と家事・育児の両立に悩みながら、やがて「世界一のパティシエ」を目指すこととなります。



まれ
希

二人の生きた時代は大きく異なりますが、共通点もあります。二人ともどんなに困難があろうと、自分の夢の実現に向かって生きた女性です。その背景には、彼女たちの夫だけでなく親、きょうだい、様々な人々の理解と協力がありました。そして「あさ」には義兄や五代友厚が「希」には有名ケーキ店の店主など、指導者がいたことも幸いでした。

これからの女性の働き方

近年、女性の労働力が期待されるようになり、助成金などの支援策があり、女性の起業家も増えています。起業は自分のライフスタイルに合わせて働け、やりがいもあります。しかし、多くの女性はパートタイムや派遣など非正規雇用で働いており、補助的な仕事が多く、十分な収入や働きがいを持ちにくいのが現状です。管理職を増やし女性の活躍を推進するだけでなく、まず雇用の条件を良くすることが重要です。また、家事や育児との両立はもっぱら女性の側に負担がかかっています。多くの女性が「あさ」や「希」のように自分の夢を持って自分らしく生きるためには、さらに男性の意識の変革や保育所など子育て環境の整備が必要だと思われます。

また、核家族化が進むなど社会状況が変化し、非婚、未婚の女性が増え、女性の生き方が多様化しています。シングルであっても、豊かな人間関係を持ち、支え支えられながら、自分も輝いて働ける社会が望まれます。

参画セミナー報告

H.27.11.17.開催

知っておこう！セクハラ・パワハラ

～自分の身を守る法的知識を身につける～

講師 弁護士 西片 和代さん



このセミナーには、企業の担当者や、人権にかかわる問題意識の高い方もたくさん参加されていました。

セクハラにあたるかどうかは、「相手に不快感を与える」が判断のポイントだそうです。人からセクハラだと言われたら、自分自身が「男は～」「女は～」と

いった考えや、偏見・旧来の常識などにとらわれていないか、自分を振り返る良い機会と考えて、深刻にならないうちに相手への対応を変えていきましょうと言われました。

パワハラは身体的・精神的な攻撃といった「業務の適正な範囲」を超えるものは論外ですが、「業務上の指導」との区別が難しいものもあるそうです。職場の指導でも、相手の性格や体調などに配慮が必要とのことでした。

また、様々なハラスメントの加害者は、力の上下関係があるが故にハラスメントを自覚しにくいことや、被害者が加害者を尊敬・信頼しているために拒否できないとの話にこの問題の解決の難しさを感じました。今後は、企業担当者の研修や相談できる環境づくりとともに、私達自身も他人事ではなく、もしも自分だったらと考えることが必要だと思いました。

H.28.2.4.開催

セカンドライフの楽しみ方

～地域で自分の居場所をつくる～

講師 シニアライフ・プランナー 吉田 清彦さん

吉田さんは、まず「個人」「家族」「地域」の3つの分野でできるセカンドライフの楽しみ方について話されました。特に「団塊の世代の男性」に向けての話の中で「男の生活自立度チェック」があり、自分のことがどれくらい自分でできるかを20項目からチェックし、できた数が少ないほど、健康寿命が短くなるというものでした。そのチェック項目のうち半分が「家事」に関するものです。

「男は外で働き、妻は家で家事」ではなく、自分でできることを増やしていくことは、仕事以外に生きがいを見つけるきっかけになるということでした。

参加されていた男性は団塊の世代前後の方が多く、時折うなずきながら真剣に話を聴かれていました。様々な分野からセカンドライフの楽しみ方を考えることができるセミナーでした。



新着図書のお知らせ

その内の2冊をご紹介します。こらぼ一よの図書コーナーには様々な本がありますので、ぜひお越しくださいね。1人5冊まで借りられます。

『女性活躍後進国ニッポン』

山田昌弘著 岩波ブックレット 2015年



「パラサイト・シングル」「婚活」など、斬新な造語で日本社会を切り取ってきた社会学者が、男女の性別役割分担意識の根深さと、それがもたらすさまざまなマイナス面を豊富なデータに基づいて

わかりやすく説明。男女ともに生きやすい社会に向けて、労働環境の整備と多様性を認める意識改革の必要性を訴えています。

『タンタンタンゴはパパふたり』

J・リチャードソン&P・パーネル著

H・コール絵 尾辻かな子、前田和男訳
ポット出版 2008年

動物園で本当にあったペンギンの家族のお話。オス同士ががつがいになって卵をかえし育てるほのほの絵本。

米国図書館協会のNotable Children's Book に選定。数々の賞を受賞した話作です。



女性のための相談室

火曜・木曜

午前10時～午後4時

- ・電話相談
- ・面接相談（予約制）

女性問題相談員が女性の立場に立ち、問題解決に向かえるようサポートします。まずはお電話ください。

三木市男女共同参画センター

愛称 こらぼ一よ

三木市福井 1933-12

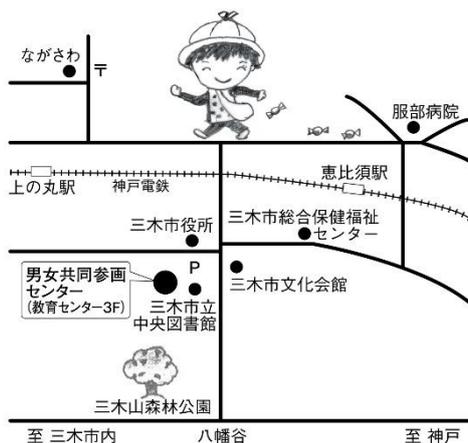
三木市立教育センター3階

(三木市立中央図書館横)

TEL&FAX 0794-89-2331

開館時間 9:00～17:00

休館日 土・日・祝日・年末年始



* 編集後記 *

「梅一輪一輪ほどの暖かさ」
春の花々に先駆けて咲く梅の花は「春告草」とも呼ばれている。寒風をついて凜と咲く梅に何か教えられる気がする。(himawari)

企画編集：

情報誌こらぼ一よ編集グループ

発行：

三木市男女共同参画センター